

「命は時間」～共に過ごす尊さ～

校長 橋元 忠史

夏休み明けの全校朝会で、医師の日野原重明先生の「命は時間」という言葉を子どもたちに紹介しました。子どもの頃や若いうちは、自分に残された「時間」が有限であることを意識することはあまりありません。しかし、歳を重ねるにつれて、この世で過ごせる自分の時間が限られていることを、折に触れて考えるようになってきました。生まれたものすべてにとって唯一平等なのは、命が有限であるという事実です。生きている時代や国籍、生活環境がどうあれ、この事実は普遍です。

私が初めてそのことを強く意識したのは、高校生の頃でした。下校時のバス停で、楽しく幸せな気持ちに包まれていた瞬間、ふと「この楽しい人生にも、いつか必ず終わりが来るのだ」と思い至り、急に死を意識して目の前が真っ暗になったことを今でも鮮明に覚えています。

命というものは実感しにくいものですが、「残された時間」として捉えると不思議と腑に落ちます。だからこそ、命を大切にすることというのは、日々の時間を大切に過ごすことと同義なのだと気づきました。さらに、他者と共有する時間を大切にすることは、相手の命を大切にすることにもつながると思うのです。

例えば、正門で毎朝交わす挨拶。目が合い、言葉を交わした瞬間、それはお互いの時間を分かち合ったことを意味します。言い換えれば、命を共有した瞬間でもあります。笑顔で心を込めた挨拶は、お互いの命を尊重し合う行為なのです。

前期が終わり、子どもたちはしばし家庭で過ごす期間に入ります。ご家庭での会話や食卓を囲む時間、外で一緒に過ごすひととき——それらはすべて、子どもたちにとって大切な「命の時間」となります。日々の忙しさの中で、つい当たり前になってしまふ瞬間こそ、かけがえのないものです。この短いお休みの間に、どうぞお子さまと心を通わせ、笑顔や温もりを共有していただければと思います。

そして後期、子どもたちがまた元気に「学びと育ちのステージ」に戻ってきたとき、その家庭で育まれた温かな時間が、学校での学びや仲間との関わりに豊かに息づいていくことを願っています。私たち教職員も、子どもたちが一日一日を大切に積み重ねていけるよう、心身共にパワーを充電してまいります。



【10月の主な行事】

※ 秋季休業（～6日）	21日（火）不審者対応訓練（6校時）
7日（火）後期始業式 運動会係間連携	25日（土） 運動会
8日（水） 学年・学級PTA（高）	26日（日）運動会予備日
9日（木） 学年・学級PTA（中）	27日（月）運動会振替休日
10日（金） 学年・学級PTA（低）	29日（水）6年生修学旅行（～31日）
14日（火）冬服更衣準備期間（～11月7日）	



～周りの「こと・もの・ひと」を大切にしよう～

今年度の附属小学校PTAテーマは、「周りの『こと・もの・ひと』を大切にしよう」です。子どもたちが、身の周りの「こと・もの・ひと」との豊かな関わりを通して、影響を与えられたり、支えられたりしながら成長できるように学校と家庭で連携していきたいと考えています。

● PTA 美化作業・6年生親子美化作業が開催されました

8月16日（土）には、PTA美化作業・6年生親子美化作業が開催されました。6年生親子や保健厚生部、ちからの会、学校職員といった約550名が参加し、校内の美化作業を行いました。作業では、一緒に汗を流す仲間と協働したり、交流を図られたりしながら、前期後半に向けた環境整備を進めてくださる姿が見られました。また、当日の夜には、ちからの会保護者全体懇親会も開催され、保護者と職員で交流を深めたり、前期後半以降のちからの会のイベントについて見通しをもったりすることができました。引き続き、後期の教育活動へのご理解・ご協力よろしくお願いいたします。



● 第1・2免許教育実習 ～夢や目標に向かう実習生と子どもとの関わり～

8月22日から9月19日までの約1か月間、教育実習が行われました。グランドデザインにある「教職の魅力発信基地」「授業創造の学び場」として、職員一丸となって、これからの教育を担う学生に対して、教職の魅力ややりがいを伝えたり、授業づくりについて一緒に考えたりしました。子どもたちも、「教職」という夢や「よりよい授業を展開したい」といった目標に向かう実習生との会話や関わりを通して、自分の夢や目標について思いを馳せたり、自分の発言や行動を振り返ったりする機会になったようでした。下は、教育実習を体験した後の子どもたちや実習生の感想です。



【子どもへ働きかける実習生の姿】

【子どもたちの感想】

- ・ 先生が作った手作りの教材がとてもよかったので、楽しく授業ができた。（2年生）
- ・ 一緒に遊んでくれるだけでなく、しっかりと注意もしてくれたので、自分のことを考えてくれているんだなと思って、もっと教生先生と関わっていきたく思った。（4年生）
- ・ 「自分は、将来どんな仕事をしているんだろう。」と考え、将来のことが気になりだした。（6年生）

【実習生の感想】

- ・ 1回目の授業を終えた後、「もっと授業準備をすることができたな。」と後悔が残った。2回目の授業では、反省を生かして、何度も教材づくりに試行錯誤したり、授業構想を練り直したりして、ある程度満足のいく授業に近づけることができた。授業中、子どもの表情がキラキラしているように見えた。それが嬉しかった。
- ・ 実習を通して、教職とは、こんなにも人と関わるのかと驚いた。多くの子どもたち、保護者、一緒に働く職員などである。人と人とのつながりを大切にしながら、夢である教職という仕事にいつしか就き、邁進したい。

● 令和7年度全国学力・学習状況調査結果について

6年生を対象に4月に実施した令和7年度全国学力・学習状況調査における本校と全国の平均正答率は、右表の結果となりました。また、質問紙調査結果からは、主体的に学習に向かおうとする姿勢や学習習慣、読書といった点については、十分な高まりが見られる一方、自己有用感や向社会性については、まだまだ伸びしろがあるという結果でした。今後は、子どもが、行事や学習に取り組む際に、子ども自身に目標や工夫する点、努力する点などを考えさせておき、その基準に沿ってどこまで達成できたのかを声掛けしたり価値付けしたりして、子どもの自己有用感等を高めていきたいと考えます。

【本校・全国の平均正答率（％）】

教科	全国	本校
国語	67	79
算数	58.2	72
理科	57.3	69